当日資料

総合計画策定にむけたこれまでの議論

策定にあたって

総花でない、みんながそれに向かってひとつになって
町民のまちづくりニーズを反映
個別計画に委ね俯瞰的・長期的視野で
先導的・効果的に推進するプロジェクトで優先的・重点的な取り組みを明らかに

審議会で出されたキーワード

人と人のつながり
本別ならでは
郷土愛
攻めの姿勢、新しいことへのチャレンジ
交流人口、関係人口増
雇用の確保
情報発信
就労人口の増（若い女性）

部会でのキーワード（審議会重複除く）

外国人（労働者）との共生
バイオマス
防災対応
スマート農業
飲食業の後継者
水源地植林
催しの集約化
コンパクトシティの推進（機能集約化）

アンケートのキーワード（重複除く）

豆、基幹産業
きらめきタウンフェスティバル
買い物支援

セミナーでのキーワード（ここ５年で実施できるものを実施していく）

本別公園一帯とキャンプ場
豆の町⇒６次産業化＝ご縁深化
情報発信⇒都会に住む人へのアプローチ不足＝ふれあいから要求を
運動施設が充実
空家の活用

移動販売
若い世代と高齢世代の住宅マッチング
世代交流（事業、場所）
交通手段確保
農業大学校の活用
交流人口、関係人口の増

アンケート結果：どんなまちに？
「安心して医療が受けられる、健康づくりに積極的なまち」を 185
「農業や工業、商業などの産業が盛んなまち」を 182
「高齢者や障がい者にやさしい福祉のまち」を 153
「防災対策を推進し、犯罪の少ない治安のよい安心なまち」を 137
「出産や子育てがしやすいまち」を 127

アンケート結果：人口減少の中で安心して暮らせる地域づくりのために
「自治会や地域活動の活性化」159 人
「路線バス、町営バスや循環バスなどの交通網の整備に力を入れるべき」147

課　題
人口減少
女性の就労年齢人口が少ない
高齢者の生活の足
空家・空き店舗の活用
若い世代の活躍

魅　力
義経の里本別公園
道の駅ステラ☆ほんべつ
農業
高速通信
高速道路整備
人
福祉
自然（星、景色、野鳥、日照時間、

施　策
目標値＝イメージできるゴール

町民アンケート調査から

・人口分布、回答者居住地区とも本別地区が 75%超

・回答者の 61.98%が 60 歳以上。10 月 31 日現在の 65 歳以上高齢化率 41.2%、75 歳以上の後期高齢化率 22.5%

・年代別年齢人口 20 歳代の女性数が少ない

・本別町に住み続けたい 50%、当分は住み続けたい人が 34.11%合わせて 84.11%と多い。
前回比較では住み続けたいと回答した人が 20.2%増

・全体的には暮らしの安全、子育て、医療、交通手段への高い関心が示されている

・どんなまちになることを望むかでは「安心して医療が受けられる、健康づくりに積極的なまち」を 185 人 48.17%の人が選択。また、「農業や工業、商業などの産業が盛んなまち」を 182 人 47.40%の人が選択。

・自慢できるもので「豆類」を選んだ人が 186 人 48.44%、他に基幹産業の農業に関する項目も多く回答。

・どんなまちになることを望むかでは「高齢者や障がい者にやさしい福祉のまち」を 153 人 39.84%他に「防災対策を推進し、犯罪の少ない治安のよい安心なまち」を 137 人 35.68%の人が選択。

・事故や犯罪が少なくて安心して暮らせると思う人「とてもそう思う」56 人 15%、「そう思う」181 人 47%、合わせて 237 人 61.72%、「どちらかと言えばそう思う」を含めると 344 人 89.58%が安心、安全な暮らしであるとしている。

・どんなまちになることを望むかでは「出産や子育てがしやすいまち」を 127 人 33.07%の人が選択し、現状としては、「子どもが元気にいきいきと過ごせる」と回答している人は 37 人 10%と低い状況にある。

・自然環境に恵まれていると思う人「とてもそう思う。そう思う」261 人 67.97%　「どちらかと言えばそう思う」を含めると 349 人 90.89%。

・関連している項目として自慢できるもので「義経の里本別公園」を選んだ人は 188 人 48.96%。

・祭りなどのイベントが多く活気があると思う人「とてもそう思う。そう思う」119 人 30.99%「どちらかと言えばそう思う」を含めると 267 人 69.53%。

・自慢できるもので「きらめきタウンファスティバル」を選んだ人は 226 人 58.85%と多くなっているものの、祭りなどのイベントが多く活気があるで「そう思う」32 人 8%と低い状況。

・人口減少の中で安心して暮らせる地域づくりのために「路線バス、町営バスや循環バスなどの交通網の整備に力を入れるべき」とした人 147 人 38.28%が選択。足の確保交通体系に関心が寄せられ、それよりも多い回答としてに「自治会や地域活動の活性化」に力を入れるべきとした人 159 人 41.41%となっている。

高校生アンケートから

・本別町に将来住みたいかの設問では「住みたくない・どちらかと言えば住みたくない」が 40 人 44.94%。「わからない」が 35 人 39.33%

・子どもが元気にいきいきと過ごせる。文化やスポーツに親しむことができる。祭りなどのイベントが多く活気がある。人が優しく協力的である。本別町が好きである。が町民アンケートと比較して割合が高い。

・高校生と地域住民、高齢者との交流を望む意見が多く出されている。

・まちの魅力の情報発信が不足しているとの意見も多くあった。

中学生アンケートから

・本別町に将来住みたいかの設問では「住みたくない・どちらかと言えば住みたくない」が 48 人 37.80%。わからないが 37 人 29.13%

・子どもが元気にいきいきと過ごせる。文化やスポーツに親しむことができる。祭りなどのイベントが多く活気がある。人が優しく協力的である。本別町が好きである。が町民アンケートと比較して割合が高い。

・店をつくってほしい等、商業関係に対する意見が多い。

第１回審査会意見

・前回の計画もすばらしいものであったけれども、検証が足りないのではないか。高校について進捗率についての検証が、不十分ではなかったか。しっかりと検証していれば、このような本別高校の状況にはならなかった。いくら良い計画案をつくっても検証をしっかりやっておかないと何にもならない。施策の実行がしっかりできないと。上士幌では毎年、検証を行って進捗状況を公開して、最近は人口が増えたとか。検証して足りない部分をどうするかとかをやらないと。策定作業から 10 年経っているから、若い人の意見ですばらし計画づくりをやっていかなければならない。

第２回審査会意見

アンケート結果に対する委員意見

・人口減少はやむを得ない。計画は総花的でなく、事業を選択することが必要。

・若い世代が経済的に厳しい状況＝支援が薄いのでは。

・生産年齢人口、特に女性の人口を増やす必要がある。

・若い世代になるにつれ本別に住みたくないというアンケート結果　＝　郷土愛の熟成を。

・現在も 60 歳代、70 歳代の人たちが多く就労している。その人たちが退いたときに本別で働く人が極端に減る。派遣職員は町外に住所がある人が派遣されてくるので人口が増えない。若い人たちが本別に住み続けていくことができるように基盤づくりを。

・本別にとどまりたい人の意見として、家や仕事があるとの町との結びつきと、隣人や友人、親族など人と人の結びつきがある。この２つが重要ではないか。

10 年後の将来像をどう描いていくのか

・災害や犯罪が少なく安全に暮らすことができる、子どもたちが元気に過ごせる、文化的な生活を送ることができる、あたりまえの暮らしができる環境づくりが必要。

・これまでの話し合いで生産年齢人口の問題、産業振興の必要性、個々の情報発信でまちづくりを進めて行くべきとの意見もあった。また、若い人たちへの配慮や施策の必要が多く意見として出されたところ、福祉や教育などの施策を通じて、若者への支援を行うということもできる。

第３回審議会意見

新しい本別町総合計画の方向性の確認

・総花的ではなく、わかりやすい、伝える、伝わる計画。みんなが目標に向かってひとつになって行動できるようなスローガン、キャッチフレーズ、計画内容に。

・何に力を入れて、まちづくりをするかということを明確に打ち出す。

・数値目標を設定する。

・町民の皆さんの手に取って見ていただけるよう、わかりやすく、簡素に主な内容を掲載してシンプルに。

・厳しい財政状況や町民の皆さんの声を反映する。

キャッチフレーズをつけることについて

・ことばによって誤解が生じる恐れがあり、施策にはキャッチフレーズをつけない。

目標の見える化のため数値目標を設定することについて

・帯広の真似ではなく、本別の形で。

・目標を設定してそれを数値化できるものであればアンケートをとって、町民の方がどう思っているのか、どう成果が出たのかということは知りたい。ただ、施策によっては数値化するのはとてもむずかしいものもあるし、一つだけでは定められないこともある。施策を決めた段階でそれぞれの目標をどうするかを考えていけば良いのではないか。目標ありきじゃなくて、施策ありきで進めていくのが良いと思う。

・目標は具体的に数値化することが大切。目標が抽象的では評価ができない。数値で示して、評価することで、ここまでしか行っていない、だから後期計画で頑張る。または、順調に行っているなど、進捗管理することができる。そして次期計画につなげていくためにも数値で表せる部分については数値で示すことが必要。ただ、数字では表せられない指標というものも出てくると思うので、それについては抽象的な言い方にならざるを得ない。
・指標の設定についてはアンケート結果も踏まえていく。
・指標の設定で成果が数値と示せないものについは満足度調査などの数値を設定することも実施していく。

計画書内容をシンプル化することについて

・文字だけだと読まない。図とか表を入れるなど見やすく、読みやすくする工夫をしてほしい。
・財政の見通しも計画の中で示してほしい。町税がどのように活かされているのかを明らかにして。

第４回（紙面会議）審議会意見

・将来像については「笑顔」「安心・安全」がキーワード結果となりました。
・⇒人口の減少と高齢化の中、コンパクトシティ化、街の機能の集約化と効率化を迫られ、町の中心を核とした土地の再利用が実施される。
・⇒人口減少、流失、少子高齢化、財政状況等厳しさを増すのは容易に想像できるが、小さなことからでもコツコツと積み重ねることが大切。
・⇒人口が減っていく中で、本別というまちで幸せだって思える事、毎日笑顔でいられること、みんながあったかい心を持てる事が出来るといい。
・⇒農業を中心とし、農業関連の企業、農業土木との循環の中で少子化の状況下、外国人労働者と共生しながら地域が成り立っている。地球温暖化の状況下、冷涼な北海道が見直される中、高速道路網の中心にいる本別の価値が評価され、その利点を以下した諸施策が実行される中、人口減少の緩和が図られる。
・⇒もっと活気があり、Welcome な街であり、古き良きものは受け継がれ、色々な事に前向きな元気な街であってほしい。
・⇒高齢者と現在の学生世代が手を取り合って街づくりをしている環境。トップダウンでなく、お互いに刺激、吸収し合う関係。若年層世代が前線に出にくいのは、こういうしがらみもあると考える。主動的になることで、地元への愛や地元のことを考える機会が増える。
・⇒人口の減少は仕方がない。でも流失はしてほしくない。住み続けたい、住んでみたいと思える魅力を一つでも多くしたい。安全で安心して暮らせること。元気な町であることは何よりなのだが、その前に平穏で平和な町であってほしい。
・⇒すべての住民に対する安心、安全の生活環境の整備。１人では生活できない人に対する福祉の充実。就業環境の充実。
・⇒豆どころとして全国的にも有名になっているが、本別ブランドの確立と企業化していくことも課題。
・⇒若者の働く場所があり（企業誘致)、子育て支援を手厚くし（出生率を上昇）若い人にも住みやすいまちにして人口減少を食い止める。高齢者の買い物難民が出ないようにし、病院を受診できない人には往診して高齢者生活が困らないようにする。老人ホーム、病院の健全な運営をして安心な暮らしができるようにする。福祉を充実させ、障がいがあっても１人でも困らずに生活ができ、全ての人が安心して暮らせる。商店街を盛り上げるために、商工会と農協、町が１つになって特産品を開発し、ふるさと納税を増やす。財政を立て直すために健全な運営ができる行政を。

第５回審査会意見

・将来像についてこれまでの「安心・安全生活」とは違って明るい題材のワードが出ました。

⇒「ほんべつ」というワードを入れるか否か。

⇒「きらめき」ということばは昔から馴染みが深い。

⇒「きらめかないと」も馴染みがある。

⇒「わくわく」する気持ち、ニアンスのことばがほしい。

第６回審査会意見

・基本計画（施策）について

⇒数値目標は基準値の上をめざすでは無く、２年したら、５年目はと年度ごとに具体的な数値を示すべき。ただ目標をつくるのでは無く、３年後の数値を検証して見直すなども必要。我々も計画作りに携わっているのだから、作った我々が見直しをすることが良いと思う。

⇒目標数値に向けて頑張ろうという姿勢が大切。

第７回審査会意見

・将来像について明るい題材のワードを並べましたが次の意見がありました。

⇒将来像のことば一つひとつに意味がなければ。めざす将来像を置いて、ことばを当てはめていくべき。ことばが先行していくのはどうかと思う。

⇒コロナで大変革の時代。コンパクトシティ化を進めて行く必要もあるのでは。10 年後の情勢が読めないような状況下にあって、本当に厳しいと思うので厳しい切り口を考える時期に来ている。

総務部会の意見

・こども 110 番の家は多くの企業が協力的に取り組んでいる。この取り組みが他の部分にも出てくれば、安心感を与えることができる。他にも子どもたちの安心をつくる体制が本別は出来ている。それらが町外の人が見た時に本別のまちの印象として伝わっていく。ボランティアの体制は出来ていて、人口の割には多くの人が自分の楽しみとして取り組んでいる。活動している人たちが気持ちよく長く継続できるよう雰囲気づくり等の支援を望む。

・中学生・高校生のアンケートでは将来、本別に帰って来たくないとの意見がある。本別のすばらしさを何らかの形で子どもたちに伝えて、その中から郷土愛が育まれて、一度、離れても戻ってこようと思えるようにすべき。

・現在も多くの外国人労働者が本別で働いている。外国の人と本別の人が共生していく認識を持つことを計画の中にも入れてほしい。行政も住民もやさしく受け入れてくれる所だとなれば、住みやすくなって、長く働いてもらえるという形になる。夫婦で働いて、子どもも本別の学校に入る時代も来るかもしれない。そういったことを含めて施策を考えていくべきではないか。

・役場の職員に自治会担当制度をとってほしい。地域自治会内では非常時の体制は整えているが、行政に応援を求める時に、地域担当の人がいれば、連絡をとって消防署や関係する所に連携をとって、すぐ対応できるような体制づくりが可能になる。安心感を地域に与えることが大切。

・防災行政無線個別受信機を高齢者には積極的に設置を推進すべき。

・これまでの阿寒－釧路西と足寄－小利別間の延伸要望もそうだが、先に本別ジャンクション（ランプ）の整備を行うよう要望を強めるべき。帯広、釧路、北見の中間点である優位性を活かすためにも道東自動車道を早期につなげまちづくりを進めるべき。

・メガファーム化し、糞尿処理が課題になっていることからも町と農協が支援を行うなどしてバイオマス発電を推進すべき。

・必要とされる情報をいかにして発信していくかが課題となっている。

・本別で生産される農産物はうまいものが採れる。全国に送っても喜ばれるものはたくさんある。工夫をして本別産品を年に 3 回に分ける等して、旬の物を送れば、みんな喜んで寄付をしてくれるのではないか。送料は高くなるが、その代償を払ってもネームバリューを上げていくべき。

・業務を管理する立場にある人が仕事の進捗状況を確認・把握して、指示やチェックする体制づくりを進めていかなければならない。

・目標は具体的に数値化することが大切。目標が抽象的では評価ができない。数値で示して、評価することで、ここまでしか行っていない、だから後期計画で頑張る。または、順調に行っているなど、進捗管理することができる。そして次期計画につなげていくためにも数値で表せる部分については数値で示すことが必要。ただ、数字では表せられない指標というものも出てくると思うので、それについては抽象的な言い方にならざるを得ない。

・指標の設定についてはアンケート結果も踏まえていく。

・指標の設定で成果が数値と示せないものについは満足度調査などの数値を設定することも実施していく。

計画書内容をシンプル化することについて

・文字だけだと読まない。図とか表を入れるなど見やすく、読みやすくする工夫をしてほしい。

・財政の見通しも計画の中で示してほしい。町税がどのように活かされているのかを明らかにして。

・本別高校のオーストラリア派遣が本別高校魅力となって、文化の違いや英語の学習に活かされ入学者の増加につながることを期待する。

産業建設部会

・酪農家もメガファーム化してきてスラリー化した糞尿をバイオマスを行って、発電後に出る副産物を土に入れていくのか、別の方法で処理するのかという選択に迫られている。今後、糞尿処理の問題は避けて通れないので、行政と農協と共同していかなければならない。

・６次産業化は本別としても進めていかなければならない。高校生や中学生も含めて、若い人の発想を取り入れて行く必要がある。食べ物や何かを作るにしても、進めてほしい。

・本別の農業は若い人が後継者として活躍している。安全な食品を生産していくことや、他とは違う生産方法で、より高い値段で出荷できる。独自に販売路をつくっていくことも大切。

・今後、スマート農業を推進していく必要がある。その点でも土地の集積が進めば作業は行いやすい。

・本別の飲食店が減っている。後継者がいない所も多いのが課題。

・本別の道の駅にある豆は好評。本別には豆があるとわざわざ豆を買いに来る人もいる。本別の豆は品質が安定している（良い）と褒められる。

・本別の小豆を使って製餡会社が本別に工場をという話もあったと聞く。福祉のまちで作った小豆餡というのをやりたい。

・高齢者の等の買い物支援ではカタログでの注文などもあるが、商品を見て買いたいという声も多く、ボランティアやタクシー等を利用して、買い物できる支援が必要。

・本別公園はすごく良いと評判。ボートやゴーカートの利用料が安いため、今後の整備や維持を考慮して値上すべきでは。

・キャンプ場の利用料、ゴミ処理のお金をキャンパーからもらうことも検討すべき。

・道の駅にある跨線橋はいらない。

・栄町の公営住宅建て替えで住宅環境は良くなったが、買い物が遠いので不便。建て替える時期もあると思うが、向陽町を重点化すべき。

・上水道の関係では安全な水となっているが、分析結果であって、おいしいとは言えない。美蘭別や活込で提供している水を市街地で数か所、出る施設をつくってはどうか。水源地に植林をしてはどうか。

・ゆっくり温泉に浸かってリラックスできる環境がなくなってしまうのではないかと心配。

文教厚生部会

・教育のことは通常のことを実施していれば評価的には平均的以上となる。ただ、次の計画に向けて、どこを目玉にしていくのかのイメージがこれまで事務局資料からは見えてこない。

・本別高校支援は、いつまで支援を続けるのか、多額の支援費用について町民理解は得られているのかなど気になる。来年度より開始されるオーストラリア研修についても、生徒が本当に望んでいることなのか、本当に必要なことなのか疑問。修学旅行と学年が同じであるため、保護者の経済的負担が増えてしまうことから、入学希望者が減って逆効果なのではないかと心配。

・給食があることなど、本別高校の魅力についてはアピールがまだまだ不足していると感じる。

・『町民全体の学びへの関心を導く』との施策は総括していく上で判断しにくい。わかりづらいものは目標にしない方が良い。

・社会教育・社会体育は、まったく参加しない人にとっては、活動や予算の使われ方が見えづらい。

・社会教育事業への参加については町の人口が減っていて、高齢化も進んでいるため、参加人数が明らかに増えていくというのはなかなか難しいと思われる。

・一つひとつの取り組みはとても盛んだが、携わる人数が増えていないため、全体の意識が低いように感じるのではないか。

・本別は毎週何かしらの催しがあるが、多過ぎるのではないかと思う。回数を減らし、人を募ってはどうか。これだけの福祉事業を実施している、多いと感心する。取り組んでいる福祉事業の数は多いが、自分が関わらないとわからない。町で実施している事業内容について「自分がこうなったら」「家族がこうなったら」具体的に紹介している資料が自宅にあったら良いと思う。自分がいざその立場になったときに調べることのできる何かが必要。
・年齢層の高い方や障がいのある児童など、福祉の事業の対象となっている方からアンケートで出てきている意見というのは、本当に支援を求めている意見だと思うので、そういったところをしっかりと受け止めてほしい。
・健康づくりに力を入れれば、病院に行くことの医療費負担が減る。介護認定者数が増えているという現状もあるため、「未病」の考え方を進める必要がある。
・医療については、町民の要望にすべて応えていては際限がなくなってしまう。町立病院で実施すること、他の病院と連携して任せるものなど役割分担をすべき。町内で完結できれば良いが、専門的なものもある。
・病院のスタッフが“いっぱい、いっぱい”の状態でやっているイメージがある。時間外診療や救急をこれだけ実施しているとなると大変。